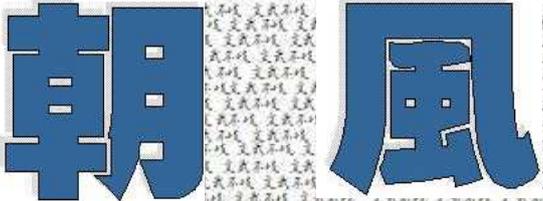


 unesco Member of the Associated Schools Network		令和5年度 学校報No.22 令和5年10月18日 大仙市立 大曲南中学校
 AKITA SDGs	教育目標 自律 貢献 夢大きく 協働的に探究し 誰一人取り残さない社会をつくる	 ※HP随時 更新しています

◇南中祭大成功！！

南中祭テーマ「届け！～笑顔で伝える南中生の想い」

7日（土）に行われた南中祭では、多くのご家族の皆様にご来校いただき、生徒が生き生きと活動する姿をご覧いただきました。少人数の特権でしょうか、生徒は一人最低でも4回ステージに立っています。それぞれの場面で、自分が学んできたことを表現することができました。「お客様ファースト」をモットーに、南中祭を運営してきましたが、いかがでしたでしょうか。生徒は、南中祭で受けた温かい拍手を胸に、準備期間から本番まで身に付けた対応する力をフルに発揮して、後期も学校生活を楽しみながら、さらに成長することを心に決めました。ご来校いただき、そして応援していただきありがとうございました。



※HPにも写真を掲載しています。ぜひご覧ください。

◇キリバス交流でSDGs

10月12日（木）、3年生がキリバス共和国セントルイス中学校とオンライン交流を行いました。この交流は2年目ですが、昨年は今回ファシリテーターも務めてくださった、ケンタロ・オノさんの講演を全校で聴いているので、キリバスについて学ぶのは2回目となります。それぞれの国の紹介の後、お互いにクイズを出し合ったり、気候変動やSDGsについて考えていることを述べ合ったりして交流を深めました。

佐藤美羽

キリバス交流では、日本や秋田のことを伝える準備頑張ってきました。いざ交流する日になると、少し緊張があって最初は表情が硬くなってしまいました。でも、ケンタロ・オノさんが楽しく進めてくれたり、クイズなどを出し合ったりすることで、だんだん緊張が解けて笑顔で交流することができました。準備を頑張ってよかったと思いました。

キリバスの方が、最後に「みんなが笑顔で暮らせる未来にしたい」というのが心に残りました。私たちは、距離は離れているけど、同じ地球に住む人としてできることがたくさんあると思うので、「笑顔」で暮らせるように頑張っていきたいです。



※HPには、たくさんの写真と、交流の動画（Zoom動画）をアップしています。キリバス側で撮影した写真も掲載しています。

◇ミステリー授業でSDGs

10月12日（木）、1、2年生は、気候変動ミステリー授業を行いました。未来のためのESDデザイン研究所代表高橋敬子さんを講師に迎え、ミステリーを解くことで、気候変動の「緩和と適応」について学びました。この授業も2年目となりましたが、今回は1、2年生合同で行いました。カードをを根拠に基づいてつなげていく中で、グループ内でじっくり話し合ったり、批判的に意見を述べたりしながら、8グループ8通りの結果を導き出しました。講師の高橋先生や、参観した方々から、考察のレベルが高いというお褒めの言葉をいただきました。



※HPには各グループのシートを掲載しています。拡大してご覧ください。

◇大同衣料株式会社の佐々木祐太代表取締役社長からのメッセージ

※すでにHPにはアップしています。裏面をご覧ください。

第4回秋田活性化中学生選手権県南地区大会で、本校が課題企業として提案した大同衣料株式会社の佐々木祐太社長から、今回のプレゼンについて感想をいただきました。

久しぶりに「感動」いたしました。生徒の皆さんの能力の高さ、与えられた情報をしっかり噛み砕いて自分たちの考えを交えて昇華させる力、伝わりやすいプレゼン力の高さ、何をとっても頭一つ抜きこんでいた発表でした。題材にいただいた私共としては、とても喜ばしく、更に身の引き締まる思いで拝聴させていただきました、同時に、私も南中卒業生の端くれ、とても誇らしかったです。

現在は少子高齢化やいろいろな社会問題が渦巻いている昨今ですが、こうやって若い世代の皆さんに教わるという機会はとても貴重で尊いものだと感じます、頭の凝り固まった我々世代が若者の感性や考え方を教わりミックスして、逆もまたしかり、世代間の交流を大事にしていきたいものだと思います。

プレゼンの中にあっただアイデアは現実にも実行出来そうなものがたくさんありました。私共も今回のプレゼンにあっただような理想的な循環型社会を目指すために、一歩ずつ努力していきたいと思います。とりあえず昨日、秋田の産業技術センターから職員が来る機会があったので、エダマメから服地が作れないか問い合わせしてみたところ、
(難易度は高そうでした)

11月11日の県大会も、ものすごく期待しております。これからさらにブラッシュアップするとのこと、まさに鬼に金棒と感じます。



審査員からは次のような講評が寄せられています。

訪問企業の理解度がとても高く、また、活性化策について深く研究を重ねており、特に①新規性・着眼点、④訪問企業への理解度、⑤プレゼンテーションの平均点は、全体を通じてトップクラスの評価を得ておりました。

大同衣料のことを研究し、そこから発展して考えられた活性化策は、明確で分かりやすかったと思います。県大会は、提案の内容、プレゼン用データ、いずれも修正・再構築可能です。更にブラッシュアップされた発表を県大会でも期待しております。

子どもたちが会社を動かすはじめています。子どもの力ってすごいですね！